

# 随想

## ベートーベンの功績 生きる力と希望与える

田幸正邦



1人生活の父レオポルトを不安視する中で(創造)の工ピントを用いた。致命的な病に陥った深い悲しみの中で冒す。

楽章のモチーフを後に交響曲第9番「短調(合唱)第3楽章に引用してヨゼフ・ヨーネが悪人であることを象徴的に描く。最愛の女性が住む来世に回かまつぞろでピアノ演奏を行う。即興する「ベートーベンを」彼女が演奏に感動したモーツァルトは友人に「諸君、彼は将来優れた音楽家になるであろう」と称賛したという。

モーツァルトが逝去した翌年の92年、後継を自負して、21歳の時にウィーンに移り住む。「ピアノソナタ第1番」短調第1楽章に「ピアノソナタ第1番」短調第1楽章のモチーフ(アルペジオ)を引用し、幼年期に早朝から深夜までピアノの練習に耐え、4種のリズムで連打(4連打連打、3連打連打、2連打連打、1連打連打)の冒頭に「アマデウス」の冒頭に使用されよく知られる。

ベートーベンは後に、同ジモチーフをピアノソナタ第8番「短調「悲愴」と同ピアノ」に引用する。前者は耳の病が進行する苦悩の中で創造される。第1楽章のアルペジオに絶望のどん底で叫ぶ姿がある。音楽家にとって最も重要な聴覚を失いつある衝撃を赤練々に表象する。第2楽章に、モーツァルトの「ピアノソナタ第17番」短調「テンペスト」に引用する。前者は耳の病が進行する苦悩の中で創造される。第1楽章のアルペジオに絶望のどん

底で叫ぶ姿がある。音楽家にとって最も重要な聴覚を失いつある衝撃を赤練々に表象する。第2楽章に、モーツァルトの「ピアノソナタ第17番」短調「テンペスト」に引用する。前者は耳の病が進行する苦悩の中で創造される。第1楽章のアルペジオに絶望のどん

底で叫ぶ姿がある。音楽家にとって最も重要な聴覚を失いつある衝撃を赤練々に表象する。第2楽章に、モーツァルトの「ピアノソナタ第17番」短調「テンペスト」に引用する。前者は耳の病が進行する苦悩の中で創造される。第1楽章のアルペジオに絶望のどん